

平成20年度 地方の元気再生事業 事業実施調書

(1) 取組名	白神山地ブランド化と首都圏商店街活性化をブリッジするプロジェクト		
(2) 実施団体名	白神ブランド化と都市商店街との交流推進協議会	(3) 対象地域	青森県・津軽地方一帯と秋田県秋北地域の広域地域
(4) 代表団体名	特定非営利活動法人 白神自然学校一ツ森校	(5) 推薦団体名	鱒ヶ沢町

(6)実施した取組の内容	取組①	白神産品ブランド化の為に農山漁村体験－首都圏商店街交流体験プログラム		
	実施主体	白神NPO・商店街・各生産組織		
	実施内容、実施結果	当初提案により予定していた計画	実際の取組内容及びその結果	
		<ul style="list-style-type: none"> ・白神産地側で店主のGT実施。 ・首都圏商店街側では、15000名集客目標のイベントを開催。 ・首都圏商店街での白神環境産品イベントを2回開催し、双方の理解促進とアンケート等により実態を把握する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・白神産地側でハッピーロード大山商店街店主等のグリーンツーリズムツアーを受け入れ実施した(第1回【20.11.17～18】は鱒ヶ沢町中心、第2回【21.1.19～20】は深浦町中心で実施。)。受け入れ施設の内容・サービス水準、産品の充実度、今後の課題など具体的な指摘が多数得られた(消費者ニーズはB級コストパフォーマンスが第一で、「一番いいものを」という生産者のマインドとのミスマッチ。出品が地場産品保証ということの価値の発見など)。 ・ハッピーロード大山商店街で産品販売イベントを開催し、出品側の期待を超える多数を集客した(第1回「白神の恵みフェア」【20.12.11～12】。第2回同商店街でフェア実施【21.2.19～20】)。イベント内の連動企画として白神産地の水で入れたコーヒー販売もおこない、水とコーヒーのブレンドの検討、商品開発についての情報交換・収集の場を設けた。 ・「白神の恵みフェア」と並行、2種のアンケート調査を実施した。当日キャッチ式は2日間で187サンプル、産品購入者アンケートは郵送で約60サンプル。当日来街客と購入客との、白神認知度、購買行動の違い、産品評価の違いなど首都圏マーケティングに有効な結果を得た。 	
	取組②	白神産地環境産品のブランド化と首都圏商店街の活性化の検討		
	実施主体	白神NPO・商店街・各生産組織		
実施内容、実施結果	当初提案により予定していた計画	実際の取組内容及びその結果		
	<ul style="list-style-type: none"> ・ツアーに参加した商店主を対象に、語り部店主育成のためのワークショップを2回開催。 ・産地側は白神ブランドについてのワークショップを4回開催し、売れる物づくりを検討し、生産者の更なる参加を促す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・グリーンツーリズムツアー参加のハッピーロード大山商店街店主と地元の生産者でワークショップを開催した。第1回【20.12.11】は、ワークショップ導入のため懇談会形式に近づけ、聞き取り作業を併用した。この結果、当初想定した以上の意見や感想が双方で集まり、熱のこもった議論により課題を共有できた。 ・第2回【20.12.22】は、年末の商店街繁忙期のため、参加者と予定者への個別ヒアリング調査とした。産地側で対応すべき点、アンケート調査を同日並行した利点など、ブリッジ戦略の肉付けに有効な詳細意見の聴取に成功した。アンケートの結果、「白神山地」の認知度は想定を下回る結果となり、白神のPRについて産地側の一丸となった展開の必要性を認識し、共通の横断幕、半纏製作の準備を始めた。 ・産地側ワークショップ【20.12.15】は日本海拠点館に参加者が集合、ロットの多さの反省、事前の商品相互理解など次回への方針修正を検討した。 		
取組③	白神産地側と首都圏商店街の双方向活性化のためのブリッジ機能強化戦略検討と展開			
実施主体	白神NPO・商店街・弘前大学農学部生命科学研究所・NPO法人尾上蔵保存利活用促進会			
実施内容、実施結果	当初提案により予定していた計画	実際の取組内容及びその結果		
	<ul style="list-style-type: none"> ・取組①、②を通じ、得られたデータ、提案事項を分析し、双方向ブリッジによる更なる地域活性化戦略検討のための検討会を2回開催する。 ・鱒ヶ沢町での取組みを白神周辺三町村へ展開するためのワークショップと、協議会づくりの検討。 	<ul style="list-style-type: none"> ・アンケート調査の結果、白神イメージの良さ、産品の鮮度・品質への好感度の高さが把握できた一方で、場所・産品種類の認知は回答にばらつきがみられ、より小ロット・少額商品が適切なことなどのデータが得られた。これらを基に双方向ブリッジによる地域活性化戦略を検討し、ハッピーロード大山商店街での定点観測などを方針化することができた。 ・鱒ヶ沢町、深浦町での取組みをもとに、西目屋村など津軽圏域市町村への事業展開、秋田県北を含む環白神での事業展開の方針を追求できた。 ・能代市、秋田県振興局など能代山本圏域との接点づくり、協力体制構築は順調に進み、秋田県側を含めた協議会体制の今後の拡張と強化にむけ具体的な準作業を進めた(【21.2.24】能代市において戦略検討会を開催)。 		

(7)実施体制	平成20年度の取組実施における体制・役割分担		取組の実施を踏まえた反省点	
	白神ブランド化と都市商店街との交流推進協議会 【事業全体統括・調整】 NPO法人白神自然学校一ツ森校 【農業経営、実証実験アドバイス、指導等】 ハッピーロード大山商店街振興組合、弘前大学農学部生命科学研究 所、JTB首都圏、NPO法人尾上蔵保存利活用促進会 【実証実験受入や生産物の供給】 白神アグリサービス、JAつがるにしきた、中村林業、山林商店、天徳 林産、太田林業、大忠林業、つがる弘前農協、(株)白神自然農場、 鱈ヶ沢町商工会 【事業コーディネーター】 鱈ヶ沢町 【白神周辺地域として、協力体制の確立】 西目屋村、深浦町 【首都圏での実証実験、ハッピーロード商店街と白神自然学校、鱈ヶ沢 商店街との連携】 有限会社ケンプランニングオフィス 【白神ブランド化に向けたマーケティング調査の実施と青森・秋田県の協 議会設立への準備コーディネーター】 協同組合プランニングネットワーク東北		・広域・異業種・セクター間協力のため、ミッションの共有、アクションプログラムづくりから日程調 整などに相当な労力が必要であり、次年度に向け、これらの克服策を関係者で共有し、事務局 体制を強化することが必要である。 ・事業コーディネーター及び白神周辺地域の協力体制について、鱈ヶ沢町、深浦町を軸に、今年度 の成果をもとに西目屋村など津軽圏域市町村への参加拡大を追求する。 ・秋田県北への事業と協議会体制の拡張は(協)プランニングネットワーク東北が担当し、能代 市、秋田県振興局との協議は順調に進んでいる。今後、体制強化を確実に準備する。 ・実証実験の受け入れ、産物産品の供給は、鱈ヶ沢町のコーディネーターで対応可能な組織・グ ループの編成により、現地体制は円滑に立ち上がった。次年度以降は、この体制の充実、産地 生産者間の事前の相互商品理解の作業など、早期からより周到な準備を進める。 ・ケン・プランニングオフィスが担当したハッピーロード商店街での実証実験の受け入れ・サポ ート体制は充実し安定していた。今後、同商店街でのイベント開催を軸に、ブリッジ効果及び改善 状況を定点観測的に評価していくことが適切との戦略確認を共有している。 ・次年度以降のブリッジ関係の構築について、首都圏側商店街にも、受け入れのためのノウ ハウ構築と産地側へのアドバイス機能が必要であり、単に協力の意志があるだけでは十分な効 果が得られないことがわかったため、来年度以降は、ハッピーロード大山商店街との連携を土 台に、板橋区の行政、区商連との連携を強め、受け入れ商店街側に必要な要件の整理も行う 必要がある。 ・マーケティング充実へのワークショップ、意見交換、ヒアリング調査は(協)プランニングネット ワーク東北が担当し、店主GT及びイベントと並行して実施した。白神産地側の産地協働のあり 方に加え、ハッピーロード商店街の商店街事業方針検討に有効な素材も収集できた。今後デー タ蓄積が進むことでさらにブリッジ双方の方針検討を深めることができると判断している。	
(8)取組により得られた成果	○成果1→	環白神ブランドの確立を目指して、マーケティング調査に先立ち、イベントツアー等の際のグループインタビュー等で顧客満足度の解析・SWOT分析等を実施し、首都圏商店街と連携したGTを活用した双方向のコミュニティ再生を目指す。		
		H19	H20(当初予定していた目標)	
		ハッピーロード商店街との合意形成はすでにあり鱈ヶ沢町と周辺町村と生産者との合意済み。	店主ツアーの開催(20名参加)、首都圏商店街イベント開催・参加(15000名集客)、マーケティング調査・モニタリング調査を実施し、顧客満足度を測定(100名)する。また、環白神ブランド化協議会の立ち上げを行う。	
		H20(実際に得られた成果)		
		・ハッピーロード大山商店街店主ツアーを2回開催した。商店街組織及び女性部中心メンバー、板橋区区商連幹部の参加を得、翌年度以降の連携を区商連に拡大する方向性が確認され、課題整理も含め濃密な協議ができ、事業成果の中間検討として、受け入れ施設の内容・サービス水準、産品の充実度など、白神側の今後の商品開発、グリーンツーリズム展開に有効な指摘が多数得られた。 ・商店街イベントにおける集客、マーケティング調査の実施はほぼ計画通り進捗した。そのデータにより、当日来街客と商品購入客との、白神の認知度、購買行動の違い、産品評価の違いなど首都圏マーケティングに有効な結果が得られた。		
○成果2→	コアグループを基点にして、生産地と消費地の地域内の課題解明に向けての広域的な連携の行動計画を試行することによって相互間の販売増を目指す。			
	H19	H20(当初予定していた目標)		
	NPO・三首長懇談会・ハッピーロード商店街との交流実績あり。	地元の広域連携(協議会設置)と送り地側の整備により、青森県側4市9町村秋田側3市3町の行政の参加を実現させる。		
	H20(実際に得られた成果)			
	・実証実験の受け入れ、産物産品の供給は、鱈ヶ沢町のコーディネーター、深浦町の協力により、現地のコアグループ組織の編成を進めることができた。 ・能代市など秋田県北の参加・協力体制準備は、能代市、秋田県振興局との具体的な協議など順調に作業を進めており、能代山本圏域の一体的な官民参加を見込むことができた。 ・これまで県境を超えた白神産地周辺の協力関係構築は容易でなかったが、この事業の進捗により、次年度以降は、青森県西海岸地区、秋田県能代山本圏域の協力体制、五能線観光振興との連携により、環白神としての協力関係の具体的な構築が展望できるようになってきている。また、これと同時に、首都圏との関係においても、分散的なブリッジ化ではなく、板橋区及び区商連参加商店街に絞り込んだ効果的な双方向連携の体制づくりへと、方針の明確化と共有を進めている。			

<p>(9)今年度の取組成果や活動を踏まえた反省点、改善点</p>	<p>・広域・異業種・セクター間の円滑な協力のため、事務局体制を強化すること、秋田県能代山本圏域への拡張などのため協議会体制自体を再構築して、関係者への事業方針の事前周知を徹底し、これらの方針について関係者間共有を進めることとする。特に市町村行政組織とのより緊密な連携を進める。 ・首都圏拠点とのブリッジについては、より具体的な絞り込みや方法を整理する。首都圏商店街の中で分散的に選択するのではなく、ハッピーロード大山商店街との連携を土台に、板橋区内の商店街を対象を絞り込み、行政(板橋区)、商業団体(区商連)との連携を追求する。 ・出品については、首都圏消費者の購買意欲の高い、より小ロット、少額多品種の品揃えを追求する。また、事前の商品相互理解など、現場の円滑な協力、相互支援の準備を強化する。</p>										
<p>(10)平成21年度以降の活動の見込み</p>	<table border="1"> <tr> <td data-bbox="331 240 891 408"> <p>当初提案に予定していた平成21年度以降の展開</p> </td> <td data-bbox="891 240 2087 408"> <p>今年度の取組状況を踏まえた平成21年度以降の活動の見込みと活用を希望する支援制度</p> </td> </tr> <tr> <td data-bbox="331 408 891 552"> <p>・コアグループの拡張・組織化、官民の地域推進組織(事業体)の立ち上げ</p> </td> <td data-bbox="891 408 2087 552"> <p>・行政との緊密な連携を軸に、コアグループの分担を一部変更。環白神協力のため、能代市などの協力を得て、実現可能な官民の地域推進組織(事業体)のあり方を検討し、関係者と協議を進めており、広域・異業種・セクター間の円滑な協力を担える事務局体制、協議会体制を構築する。 【活用を希望する制度:上記について地方の元気再生事業の継続支援を希望(想定金額300万円)】</p> </td> </tr> <tr> <td data-bbox="331 552 891 703"> <p>・若手生産者研修、都市と農村のニーズに対応した製品の開発実験。</p> </td> <td data-bbox="891 552 2087 703"> <p>・イベント並行のアンケート調査結果、その解析データを活用し、連携イベントへの(白神産地側の)意欲的な若手参加者を軸に、ハッピーロード商店街商店主リーダーの協力を得て、首都圏消費者のニーズに対応した製品の開発、改良と提供実験を進める。 【活用を希望する制度:上記について地方の元気再生事業の継続支援を希望(想定金額700万円)】</p> </td> </tr> <tr> <td data-bbox="331 703 891 853"> <p>・参加生産者、自治体の、青森県の津軽一円、秋田県北への拡大。</p> </td> <td data-bbox="891 703 2087 853"> <p>・青森県は西海岸2町村を軸に経験値を固めるとともに、今年度の事業成果をもとに、西日屋村など津軽圏域市町村への参加拡大を追求する。また、他の広域観光推進事業、五能線観光振興事業との連携を進める。秋田県北については能代山本圏域の官民参加体制づくりを追求し、これに即した協議会体制へと再構築する。 【活用を希望する制度:上記について地方の元気再生事業の継続支援を希望(想定金額200万円)】</p> </td> </tr> <tr> <td data-bbox="331 853 891 853"> <p>・体験・交流プロジェクト、ブリッジ戦略を導入する首都圏商店街の拡大。</p> </td> <td data-bbox="891 853 2087 853"> <p>・ブリッジの相手先として数多い首都圏商店街のなかで分散的に選択することより、むしろ、板橋区・区商連との緊密な連携を追求する。次年度以降、事業の軸としてハッピーロード商店街で定点観測的にイベント、アンケート調査を実施するとともに、板橋区内の商店街との連携開催、ハッピーロード商店街のノウハウ移転を追求する。 【活用を希望する制度:上記について地方の元気再生事業の継続支援を希望(想定金額200万円)】</p> </td> </tr> </table>	<p>当初提案に予定していた平成21年度以降の展開</p>	<p>今年度の取組状況を踏まえた平成21年度以降の活動の見込みと活用を希望する支援制度</p>	<p>・コアグループの拡張・組織化、官民の地域推進組織(事業体)の立ち上げ</p>	<p>・行政との緊密な連携を軸に、コアグループの分担を一部変更。環白神協力のため、能代市などの協力を得て、実現可能な官民の地域推進組織(事業体)のあり方を検討し、関係者と協議を進めており、広域・異業種・セクター間の円滑な協力を担える事務局体制、協議会体制を構築する。 【活用を希望する制度:上記について地方の元気再生事業の継続支援を希望(想定金額300万円)】</p>	<p>・若手生産者研修、都市と農村のニーズに対応した製品の開発実験。</p>	<p>・イベント並行のアンケート調査結果、その解析データを活用し、連携イベントへの(白神産地側の)意欲的な若手参加者を軸に、ハッピーロード商店街商店主リーダーの協力を得て、首都圏消費者のニーズに対応した製品の開発、改良と提供実験を進める。 【活用を希望する制度:上記について地方の元気再生事業の継続支援を希望(想定金額700万円)】</p>	<p>・参加生産者、自治体の、青森県の津軽一円、秋田県北への拡大。</p>	<p>・青森県は西海岸2町村を軸に経験値を固めるとともに、今年度の事業成果をもとに、西日屋村など津軽圏域市町村への参加拡大を追求する。また、他の広域観光推進事業、五能線観光振興事業との連携を進める。秋田県北については能代山本圏域の官民参加体制づくりを追求し、これに即した協議会体制へと再構築する。 【活用を希望する制度:上記について地方の元気再生事業の継続支援を希望(想定金額200万円)】</p>	<p>・体験・交流プロジェクト、ブリッジ戦略を導入する首都圏商店街の拡大。</p>	<p>・ブリッジの相手先として数多い首都圏商店街のなかで分散的に選択することより、むしろ、板橋区・区商連との緊密な連携を追求する。次年度以降、事業の軸としてハッピーロード商店街で定点観測的にイベント、アンケート調査を実施するとともに、板橋区内の商店街との連携開催、ハッピーロード商店街のノウハウ移転を追求する。 【活用を希望する制度:上記について地方の元気再生事業の継続支援を希望(想定金額200万円)】</p>
<p>当初提案に予定していた平成21年度以降の展開</p>	<p>今年度の取組状況を踏まえた平成21年度以降の活動の見込みと活用を希望する支援制度</p>										
<p>・コアグループの拡張・組織化、官民の地域推進組織(事業体)の立ち上げ</p>	<p>・行政との緊密な連携を軸に、コアグループの分担を一部変更。環白神協力のため、能代市などの協力を得て、実現可能な官民の地域推進組織(事業体)のあり方を検討し、関係者と協議を進めており、広域・異業種・セクター間の円滑な協力を担える事務局体制、協議会体制を構築する。 【活用を希望する制度:上記について地方の元気再生事業の継続支援を希望(想定金額300万円)】</p>										
<p>・若手生産者研修、都市と農村のニーズに対応した製品の開発実験。</p>	<p>・イベント並行のアンケート調査結果、その解析データを活用し、連携イベントへの(白神産地側の)意欲的な若手参加者を軸に、ハッピーロード商店街商店主リーダーの協力を得て、首都圏消費者のニーズに対応した製品の開発、改良と提供実験を進める。 【活用を希望する制度:上記について地方の元気再生事業の継続支援を希望(想定金額700万円)】</p>										
<p>・参加生産者、自治体の、青森県の津軽一円、秋田県北への拡大。</p>	<p>・青森県は西海岸2町村を軸に経験値を固めるとともに、今年度の事業成果をもとに、西日屋村など津軽圏域市町村への参加拡大を追求する。また、他の広域観光推進事業、五能線観光振興事業との連携を進める。秋田県北については能代山本圏域の官民参加体制づくりを追求し、これに即した協議会体制へと再構築する。 【活用を希望する制度:上記について地方の元気再生事業の継続支援を希望(想定金額200万円)】</p>										
<p>・体験・交流プロジェクト、ブリッジ戦略を導入する首都圏商店街の拡大。</p>	<p>・ブリッジの相手先として数多い首都圏商店街のなかで分散的に選択することより、むしろ、板橋区・区商連との緊密な連携を追求する。次年度以降、事業の軸としてハッピーロード商店街で定点観測的にイベント、アンケート調査を実施するとともに、板橋区内の商店街との連携開催、ハッピーロード商店街のノウハウ移転を追求する。 【活用を希望する制度:上記について地方の元気再生事業の継続支援を希望(想定金額200万円)】</p>										

◆主な実施取組の内容◆

実施取組内容・結果

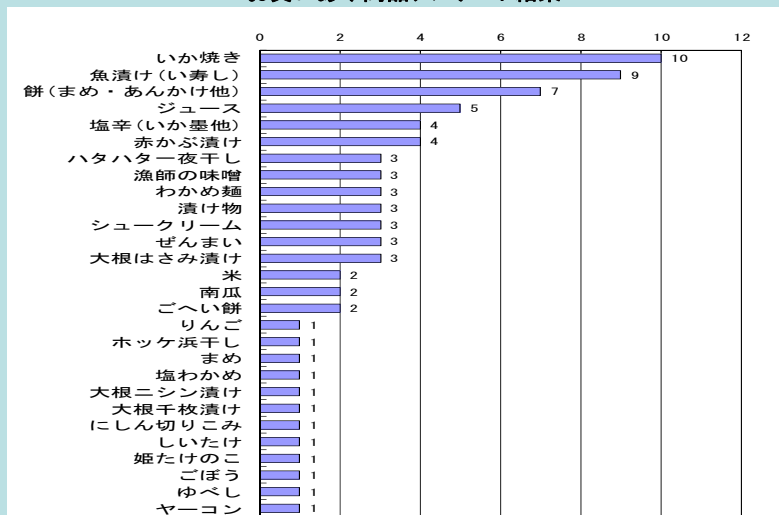
- ・白神産地側でハッピーロード大山商店街店主等のグリーンツーリズムツアーを実施した。産地視察を兼ねた情報交換会も開催でき、白神ブランド化等の検討に関連し、首都圏イベントに向けた消費者ニーズ、情報を得ることができた。
- ・首都圏商店街でイベントを開催。イベント会場において、白神ブランド化や活性化の検討のためにアンケート調査を実施した。また、商店街の喫茶店の協力を得て、白神山地の水で淹れたコーヒーを提供する連動企画などにより、水とコーヒーのブレンドの検討など、白神のイメージや商品開発について、消費者、店主、産地参加者のスムーズな交流の場がセットできた。



実施取組内容・結果

- ・首都圏イベント終了後、直ちに産地側ワークショップを行い、反省と次回にむけた検討をおこなった。また、個別のヒアリング調査のため、大山商店街を再訪し、関係者にヒアリングを行い改善点等を探った。
- ・首都圏イベントにおいて実施したアンケート調査の結果、白神イメージや産品種類等に関する様々な情報を得ることができ、それらを基に白神ブランドやブリッジ化による地域活性化戦略の検討、方針化することができた。
- ・環白神体制の構築のため、秋田県北を含む広域的展開へ向けてのセミナー形式の戦略検討会を実施し、環白神地域へ対し情報の共有と働きかけをおこなった。

お買いあげ商品アンケート結果



◆取組実施による成果・今後の展開◆

- ・これまで協力販売やイベントを開催する機会が少なかった鱒ヶ沢・深浦両町の商店や農家が、協力して事業に取り組めたことは大きな成果であり、今後「白神山地」ブランドで、継続して協力していこうという一体感が生まれた。
- ・店主ツアーの開催により、白神側の今後の商品開発、グリーンツーリズム展開に有効な指摘・意見が多数得られた。また、首都圏商店街イベントにおける集客、マーケティング調査も計画どおり行うことができ、白神ブランド化、首都圏活性化のための様々な検討データを入手することができた。
- ・能代市など秋田県北の広域的な参加・協力体制準備について、具体的な協議など順調な事業展開ができ、環白神としての協力関係の構築が展望でき、また、首都圏との関係についても分散的なブリッジ化ではなく、対象を絞り込んだ、より効果的な連携体制づくりという方針の明確化と共有を図ることができた。
- ・今後の展開として、環白神協力にむけて、津軽圏域市町村や秋田県北の広域的な参加による協議会体制の再構築を図る。また、産地側において意欲的な若手参加者による白神ブランド商品の開発実験等を進めていき、白神ブランド化と首都圏商店街活性化、環白神地域の活性化を推進する。